

(仮称) 第3次都心まちづくり計画検討会

<第一部会>

第1回 居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会

2024年8月29日

札幌市 都心まちづくり推進室



1 部会における検討の前提 (都心まちづくり計画の見直し)

- (1) 関連計画
- (2) 検討体制
- (3) 見直しのスケジュール



2 現行計画及びこれまでの取組

- (1) 第2次都心まちづくり計画
- (2) これまでの取組
- (3) 都心に関する市民アンケート調査

3 国、他都市の動向

- (1) 国の動向
- (2) 他都市の動向（国内）
- (3) 他都市の動向（海外）



4 検討の方向性



5 課題認識と検討の視点

本日、ご議論いただきたいこと

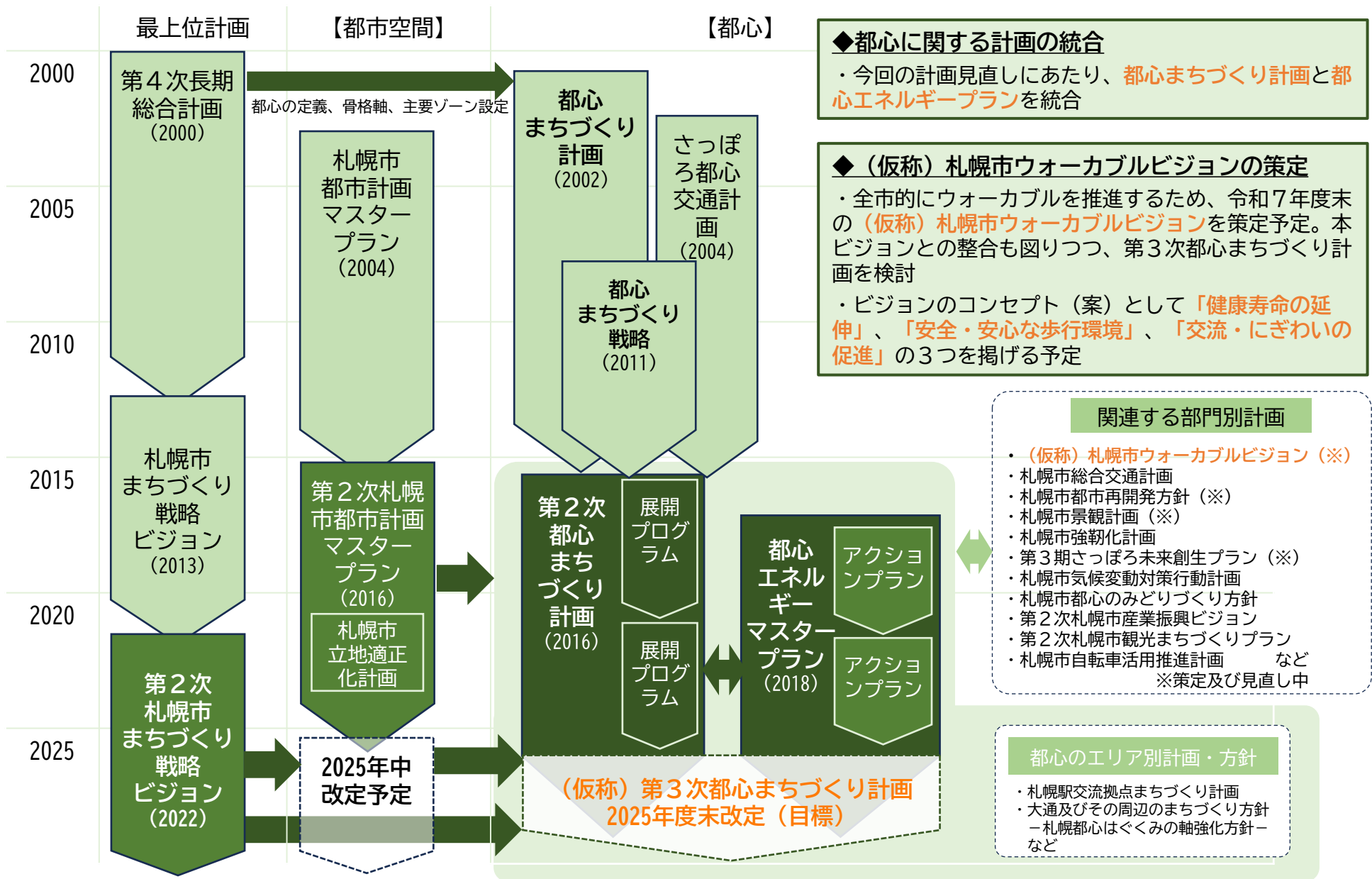
新たな計画に反映させるべき事項として

「課題認識」と「検討の視点」への意見

1 部会における検討の前提（都心まちづくり計画の見直し）

(1) 関連計画

第1回（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会資料を一部改変



1 部会における検討の前提（都心まちづくり計画の見直し）

(2) 検討体制

（仮称）第3次都心まちづくり計画の検討体制

- 現行の「**第2次都心まちづくり計画**」と「**都心エネルギーマスタープラン**」を一体的に見直しを行うための有識者会議として「（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会」を設置。
- 「**居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり**」と「**都心の脱炭素化に向けたエネルギー施策**」を次期計画の深掘りすべき論点に位置づけ、**2つの部会を設置**。

“居心地が良く歩きたくなるまちづくり”に関する事項については、**<第一部会>**で検討を進める

（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会

<第一部会> 居心地が良く歩きたくなる 都心まちづくり検討部会

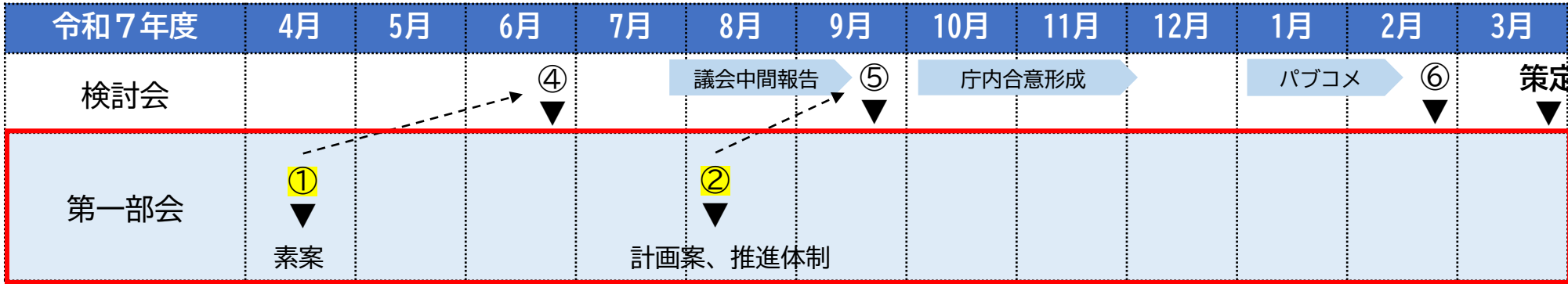
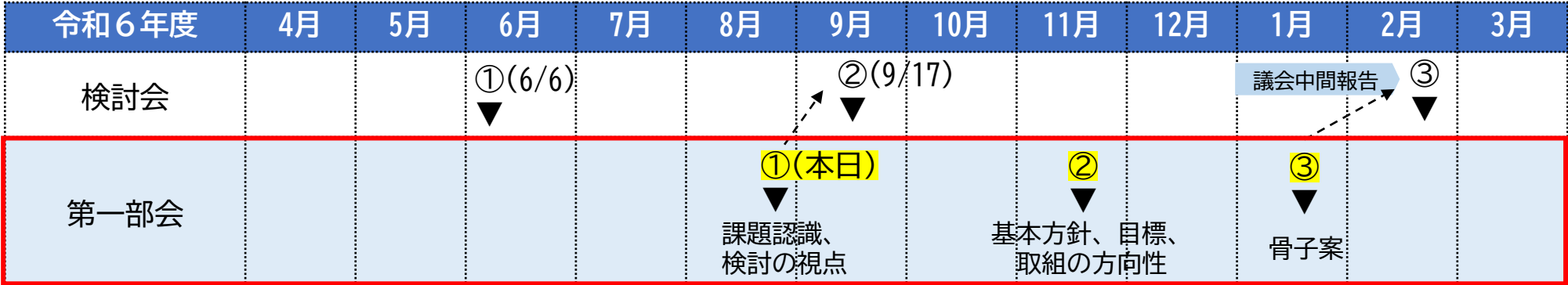
- 札幌の顔である都心ならではの都市文化を育み、多様性のあるまちづくりを進め、都市生活の質の向上を図るには、**官民が持つ様々なパブリックスペース**を一体的に捉え、**人と人が出会い、滞留し、交流することができる活用しやすい空間**へと変えていくことが必要。
- 様々な活動を支える**交通機能の維持向上**を図りつつ、**積雪寒冷地における居心地が良く歩きたくなるまちづくりを進めるための方針等**を検討。

<第二部会> 都心の脱炭素化に向けた エネルギー施策検討部会

- 世界的な**脱炭素化**の潮流を捉え、国内外に札幌の価値を発信していくためには、社会・経済活動の中心地である都心において、今後のまちの更新に合わせ、**継続した先導的な取組**が求められる。
- エネルギープランに沿ったこれまでの取組を礎に、**再エネ電力の導入拡大方策**や**既存エネルギーネットワークを受け皿とした将来的なエネルギー転換、災害対策**等を、計画体系の整理と併せ検討。

1 部会における検討の前提（都心まちづくり計画の見直し）

(3) 見直しのスケジュール



部会の検討テーマ（案）		
令和6年度	第1回	課題認識、検討の視点
	第2回	基本方針、目標、取組の方向性
	第3回	骨子案
令和7年度	第1回	素案
	第2回	計画案、推進体制

2 現行計画及びこれまでの取組

(1) 第2次都心まちづくり計画

- 都心のまちづくりの指針として2016年に策定
- 計画期間：2016年度～2035年度

◆都心まちづくりの目標

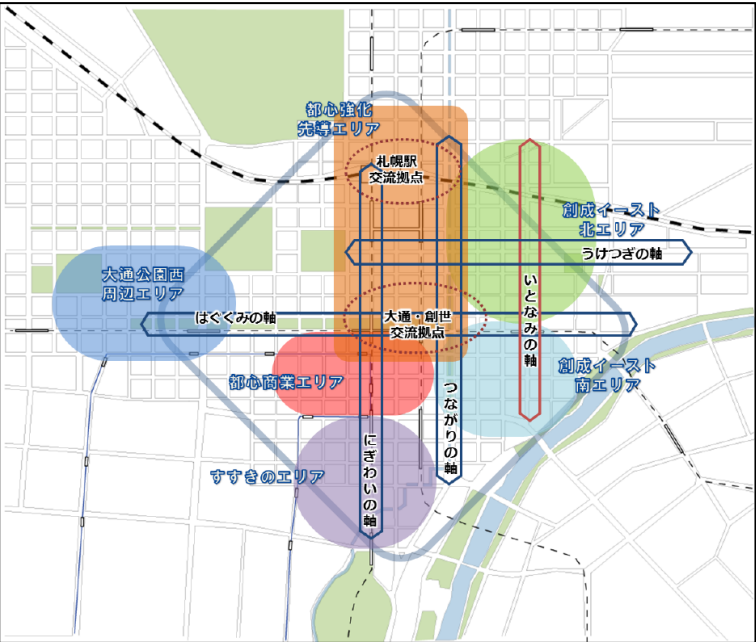
世界に比肩する都心強化と、市民の暮らしの中心となる2つの側面から目標を設定。

国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立

魅力的な都心のライフスタイル・ワークスタイルの実現

◆都心の構造

「4骨格軸—1展開軸—2交流拠点」、「ターゲット・エリア」を位置づけ。



◆都心まちづくりの戦略

特に強力に推進すべき重要な取組として「都心まちづくりの戦略」を設定。

戦略1	戦略2	戦略3	戦略4
世界が注目する魅力と活力、ライフスタイルを実現するビジネス・都市観光機能の強化と成熟型都市環境の実現	北海道らしい豊かなみどりや地球にやさしい環境を守り育てる持続可能なまちの実現	市民や来街者にとって魅力的なライフスタイル・ワークスタイルを生む都市空間の形成	札幌の持続的・発展的成長をけん引する都心マネジメントの展開

・歩きたくなるまちの実現
・豊かなパブリックライフ（交流・社交活動）の実現 など

◆都心の空間形成指針

都心の空間の持続的成長・強化のための取組として、都心の構造となる「骨格軸」「展開軸」「交流拠点」及び「ターゲット・エリア」といった主要な要素について、あるべき姿を展開指針として定めるとともにその具現化に必要とされる取組の方向性を骨子として定めている。

◆着実な展開に向けて

目標と戦略に基づくまちづくりを着実かつ発展的に展開するため、5年ごとに、都心まちづくりに関わる主体間で共有された価値を実現する「取組」と、その推進に際しての中核的な「主体」、推進を支える「事業」を示した「展開プログラム」を設定。

2 現行計画及びこれまでの取組

(1) 第2次都心まちづくり計画

第1回（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会 資料より

都心まちづくり計画（2002）
都心まちづくり戦略（2011）

第2次都心まちづくり計画（2016）

今後の課題

【主な取組】

骨格軸・交流拠点
の形成

駅前通、創成川通、
札幌駅、大通駅など

- ・ 拠点型開発の誘導
- ・ 開発誘導方針による容積緩和等での民間開発誘導



- ・ 拠点から周辺への開発の波及
- ・ リノベーション等、既存資源・資産の活用

オープンスペースや
地下空間の
ネットワークの形成

チ・カ・ホ、アカプラ

- ・ 豊かなみどりの空間の創出、拡充
- ・ 公共交通を軸とした歩行者優先の交通環境の形成



- ・ 公民協調による更なるオープンスペースネットワークやみどりの拡充
- ・ 多様な主体による柔軟な空間活用の展開

創造都市さっぽろを
象徴的に発信する場

創世スクエア（図書・情報館、
hitaruなど札幌市民交流プラザ）

- ・ 北海道、札幌を先導するビジネス、観光機能の強化
- ・ 都心らしいライフスタイル、ワークスタイルの実現



- ・ 人、情報、技術を結びつける機能の導入
- ・ 観光交流環境の強化

まちづくり組織の形成

地区別組織、TMO

- ・ エリアマネジメントによる空間活用
- ・ 地区まちづくりルールの策定・運用による開発事前協議



- ・ 民間主体、公民連携型のより実践的な推進体制の構築

2 現行計画及びこれまでの取組

(2) これまでの取り組み（ハード・ソフト）

◆札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）

- ▶ 四季を通じて安全で快適な歩行空間の実現、沿道ビルとの接続などによって、歩行者数の増加、回遊性向上、広場空間での賑わい創出、地価の上昇などの効果が発現
- ▶ 指定管理者による運営管理（札幌駅前通まちづくり株式会社）



【写真】チ・カ・ホの広場空間

◆官民連携による地下ネットワーク拡充

- ▶ 北8西1地区の再開発事業における公共貢献として、地下鉄東豊線さっぽろ駅に接続する地下通路を官民連携で整備により札幌駅周辺の回遊性が向上
- ▶ 地下鉄・JR駅・バスターミナルへの安全で快適な歩行経路の創出



【写真】北8西1地下通路

◆北3条広場（アカプラ）

- ▶ 多様な活動の展開や新たな回遊拠点の形成による都心全体のにぎわい創出を目的として道路を広場化
- ▶ 沿道ビルを建設する民間事業者の公共貢献の一環として整備
- ▶ 有識者等で構成されるデザイン検討会議を経て、道庁赤れんが庁舎やイチヨウ並木等の特性を生かしたデザインに決定
- ▶ 利用ルールの明確化や給排水・電気設備の設置より利活用促進



【写真】北3条広場(秋)



【写真】北3条広場(冬)

◆路面電車のループ化

- ▶ 路面電車の利便性向上に加え、札幌駅前通の魅力向上、都心の賑わい創出等を目的として整備
- ▶ 利用者数の増加や安全性・利便性の向上、路面電車が歩道側を走行することによる魅力的な風景に貢献
- ▶ 周辺道路に荷捌きやタクシーの駐停車スペースを配置



【写真】札幌駅前通



【写真】荷捌き、タクシーのスペース

◆大通すわろうテラス

- ▶ 路面電車のループ化にあわせ、札幌駅前通の魅力を向上し、にぎわいを創出する、来街者の利便に供する施設として設置
- ▶ 道路協力団体制度（道路占用許可の特例制度）を活用し、札幌大通まちづくり株式会社が運営
- ▶ 施設・広告塔の使用料収入で維持管理経費を賄うほか、イベントや周辺の清掃・美化活動などにあてる



【写真】大通すわろうテラス

2 現行計画及びこれまでの取組

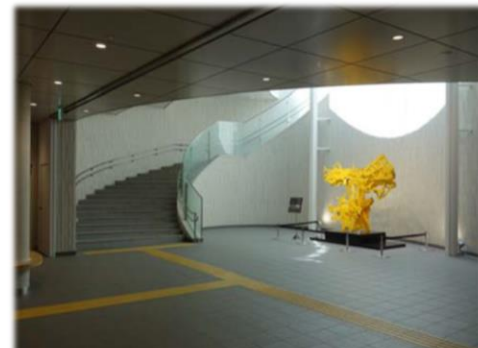
(2) これまでの取り組み（ハード・ソフト）

◆大通交流拠点

- 札幌駅前通と大通公園の交差部に地下広場を整備
- 様々な形のテーブルやベンチなどの滞留空間と地上の自然光を取り込む吹き抜けなどによるゆとりある空間を形成
- 休憩や待ち合わせなど、多くの来街者に利用されている



【写真】大通交流拠点の滞留空間



【写真】出入口(吹き抜け)

◆開発誘導（オープンスペース整備等）

- 「都心における開発誘導方針」等により、都心に関連する各種計画の目標に資する民間都市開発を積極的に誘導
- 地区の特性に応じた質の高いオープンスペースの整備や利活用を促す取組等の促進
- 共同荷捌き場などの交通施設整備、地下の歩行者空間への接続や地上・地下出入口の取込みなどによる重層的な回遊ネットワーク形成の促進 など



【写真】D-LIFEPLACE札幌



【写真】moyuk SAPPORO

◆自転車に関する取組

- 「札幌市自転車活用推進計画」等に基づき、自転車通行位置の明確化や駐輪場整備による放置自転車の抑制、自転車ルール・マナーの周知と啓発など、安全で快適な自転車利用環境の実現に向けた取組を推進
- 都心部では民間事業者によるシェアサイクル事業（ポロクル）が展開されており、既存の公共交通と連携した交通ネットワーク形成等に貢献



【写真】矢羽根型路面表示の設置状況



【写真】シェアサイクルポート(札幌市役所)

2 現行計画及びこれまでの取組

(2) これまでの取り組み（社会実験）

◆道路利活用実証実験（南1条通）

- ▶ 片側2車線を1車線に規制して、**賑わいの創出と歩行者の安全性の向上**を図る
- ▶ 賑わい空間と荷さばき空間のタイムシェアにより、限られた道路空間を有効活用
- ▶ 休日の**歩行者交通量が約1.9倍**に増加（2.36万人→4.44万人）

・実施期間：2022年6月17日～6月30日

・実施主体：札幌都心交通研究会

・実施区域：南一条通（西2丁目～西3丁目）

（事務局：札幌大通まちづくり㈱）



【写真】滞留空間



【写真】荷さばき空間

◆道路利活用実証実験（中通り①）

- ▶ 都心の中通りの道路空間にテーブルや椅子を設置するとともに、沿線テナントやキッチンカーの出店等により賑わいを創出し、**中通りの魅力向上**を図る



【写真】滞留空間



【写真】飲食物の販売

・実施期間：2024年6月27日～8月31日

・実施主体：札幌都心交通研究会

・実施区域：さっぽろシャワー通り（南1～2条西3丁目）

（事務局：札幌大通まちづくり㈱）

◆道路利活用実証実験（中通り②）（予定）

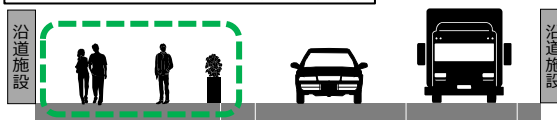
- ▶ 都心部において「**荷捌き効率化**」と「**安全・安心な歩行空間確保**」に向けた社会実験を実施

実験前



実験時（タイムシェア）

18:00～11:30:荷捌き中心時間帯



11:30～18:00:歩行者中心時間帯



【写真】現状の中通り

実施期間：2024年9月11日～10月8日

実施区域：南1西2中通り

（大通西2丁目～南1条西2丁目）

南1西3中通り

（大通西3丁目～南1条西3丁目）

実施主体：札幌都心交通研究会

（事務局：札幌大通まちづくり㈱）

2 現行計画及びこれまでの取組

(2) これまでの取り組み（社会実験）

◆大通公園プレイスメイキング

- 令和3年度から、防災の視点や日常の公園利用をより豊かにする新たな取組として、実証実験を継続的に実施
- 学生、企業、沿道施設等とも連携し企画・実施・検証を行う
- 多様な来街者が空間を利用し、休憩、飲食、読書、音楽演奏、文化体験などの様々な活動や偶発的な交流が生まれた

・実施期間: 2023年9月16日(土)
・実施区域: 大通公園西2丁目
・実施主体: (一社)SAPPORO PLACEMAKING LABO



【写真】全体の様子



【写真】人工芝の空間で楽しむ様子



【写真】ストリートピアノを演奏する様子



【写真】多くの人が滞在する様子

◆道庁南エリア社会実験

- 地権者等が中心となって、エリアのまちづくりに積極的に取り組み、西6丁目線のシンボルストリート化などをを目指す
- 将来像の実現に向けて、令和4年度から社会実験を実施しており、令和5年度には道路空間も活用するなど、実験範囲を拡大
- 実験中には歩行者交通量が増加するとともに、利用者アンケートでは「歩いていて楽しい」などの前向きな意見が多数あった

・実施期間: 2023年9月13日(水)～9月15日(金)
・実施区域: 北1条西6丁目周辺
・実施主体: 道庁南エリア研究会



【写真】民地内の活用



【写真】パーティバイク



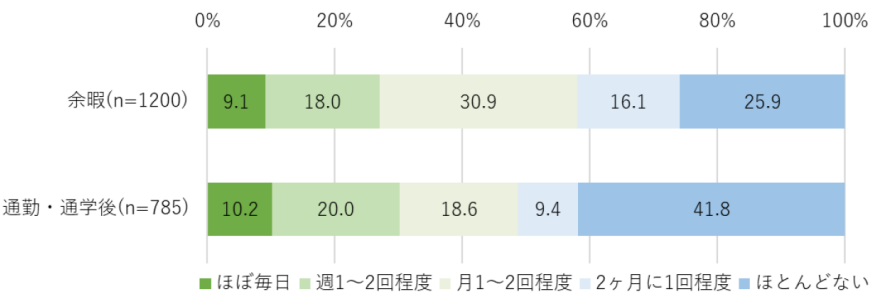
【写真】道路空間の活用

2 現行計画及びこれまでの取組

(3) 都心に関する市民アンケート調査（令和3年度）

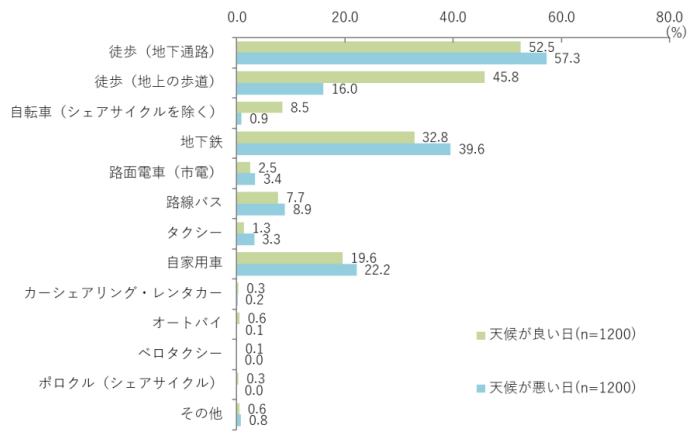
◆都心の利用実態（利用頻度）

- 余暇、通勤・通学後ともに「ほぼ毎日」利用する人の割合は約1割
- 「週1～2回程度」利用する人の割合は約2割



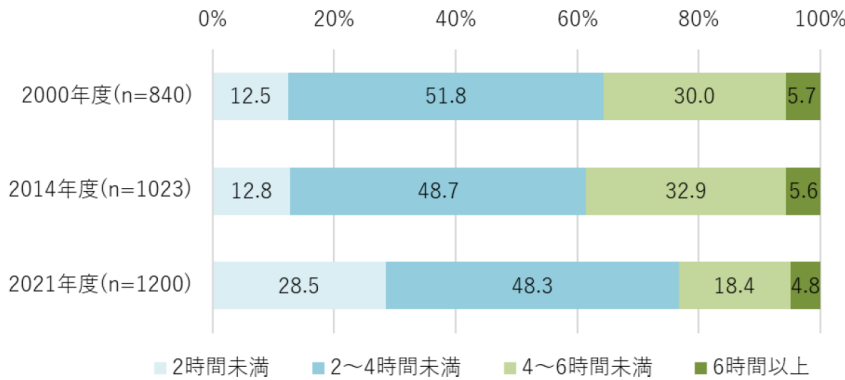
◆都心内の主要な移動手段

- 天候によらず徒歩での移動が最も割合が高い
- 天気が良い日は「地上」を歩く人が比較的多い



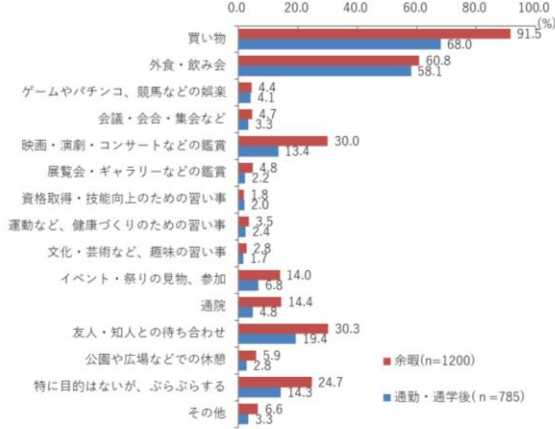
◆都心を利用する際の滞在時間

- 余暇に都心を利用する際の滞在時間は、「2時間未満」が28.5%、「2～4時間未満」が48.3%
- 過年度と比較すると滞在時間は減少傾向



◆都心の主な利用目的

- 買い物が最も高く、ついで外食・飲み会が高い
- 特に目的がなく、ぶらぶらするという人も多い

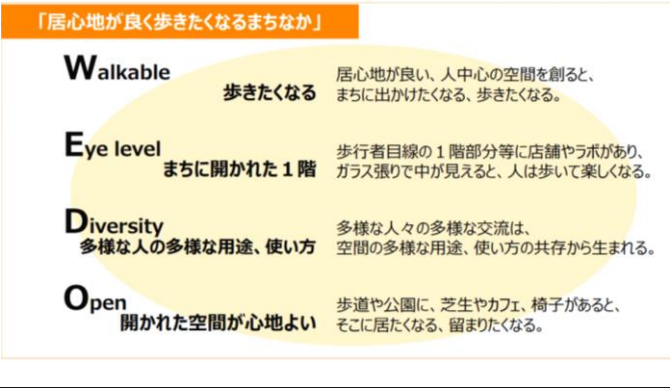


3 国、他都市の動向

(1) 国の動向

◆まちなかウォーカブル推進プログラム（2019年12月20日）

- 「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」の提言として、2019年6月26日に『「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生』がとりまとめられた。
- 国土交通省では、同年12月20日に「まちなかウォーカブル推進プログラム」として、関連する予算や税制改正、検討会・懇談会、作成予定の事例集等をとりまとめた。
- 国が募集する「ウォーカブル推進都市」として、札幌市を含む381都市が賛同し、取組を実施している（※2024年7月31日時点）



新たな事業等の立ち上げ

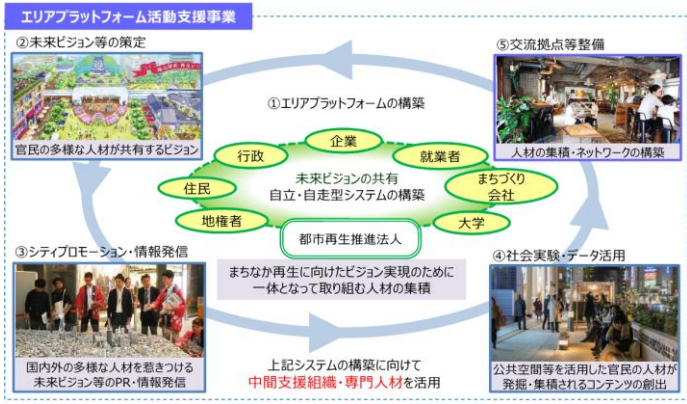
◆まちなかウォーカブル推進事業

都市再生整備計画に基づく「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりのための取組を、法律・予算・税制等のパッケージにより支援する事業



◆官民連携まちなか再生推進事業

官民の様々な人材が集積する「エリアプラットフォームの構築」、エリアの将来像を明確にした「未来ビジョンの策定」、ビジョンを実現するための「自立・自走型システムの構築」を総合的に支援する事業

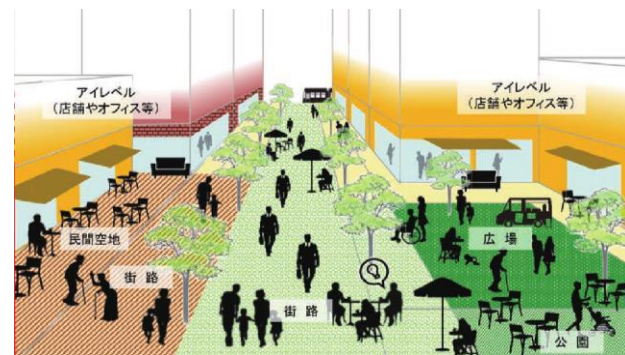


3 国、他都市の動向

(1) 国の動向

◆ストリートデザインガイドライン（2020年3月）

- 人中心のウォーカブルな公共空間の必要性と効果、都市における、人が居心地良く感じる道路空間の形成やデザイン性について記載されたガイドライン
- 街路（路面上）だけでなく、沿道等も含めた空間全体をストリートとして国民の公共空間を一体的に捉えて、デザインを考える必要性
- 歩きやすい環境整備のみならず、沿道の民地も含めたトータルなデザインや、滞在・交流といった、ストリートの価値を考える必要性



◆2040年、道路の景色が変わる（2020年6月）

2040年を見据え、未来の道路政策ビジョンを策定し、長期的な社会像と政策の方向性が示された

- 道路政策の原点は「人々の幸せの実現」
- デジタル技術をフル活用して道路を「進化」させ課題解決
- 道路にコミュニケーション空間としての機能を「回帰」



曜日や時間帯に応じて道路空間の使い方が変わる路側マネジメント



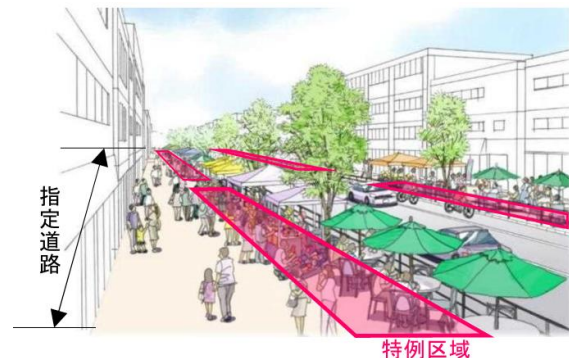
BRTや自転車等を中心とした低炭素な交通システム

◆歩行者利便増進制度（2020年11月）

賑わいのある道路空間を構築するための道路の特例区域の指定制度を策定

【特例区域】

- 道路占用がより柔軟に認められる
- 占用者を幅広く公募し、民間の創意工夫を活用した空間づくりが可能
- 公募により選定された場合には、最長20年の占用が可能（テラス付きの飲食店など初期投資の高い施設も参入しやすく）



3 国、他都市の動向

(2) 他都市の動向（国内）

◆大阪市（御堂筋の再編）

フルモール化によるシンボリックな空間創出を目指す



出典：御堂筋未来ビジョン（大阪市HP）

◆神戸市（サンキタ通り、パークレット）

ほこみち制度による沿道店舗と一体の道路空間活用



側道の歩行者空間化（ファーストステップ）



移設可能な構造のパークレットを設置



パークレット：歩道と路肩の一部を活用した滞留空間

3 国、他都市の動向

(2) 他都市の動向（国内）

◆姫路市（大手前通り、姫路駅前広場）

一部区間をトランジットモール化（路線バス・タクシー）



トランジットモール区間の出入口部分（路面標示等）



◆富山市（トランジットモール）

路面電車と歩行者が共存した空間（社会実験）



（同上）



3 国、他都市の動向

(3) 他都市の動向（海外）

◆パリ（シャンゼリゼ通り）

広幅員歩道の連続した路面店とテラス席により賑わい創出



◆ニューヨーク（タイムズスクエア）

広場化により歩行者増加、交通事故減少



出典：ストリートデザインガイドライン（国交省）

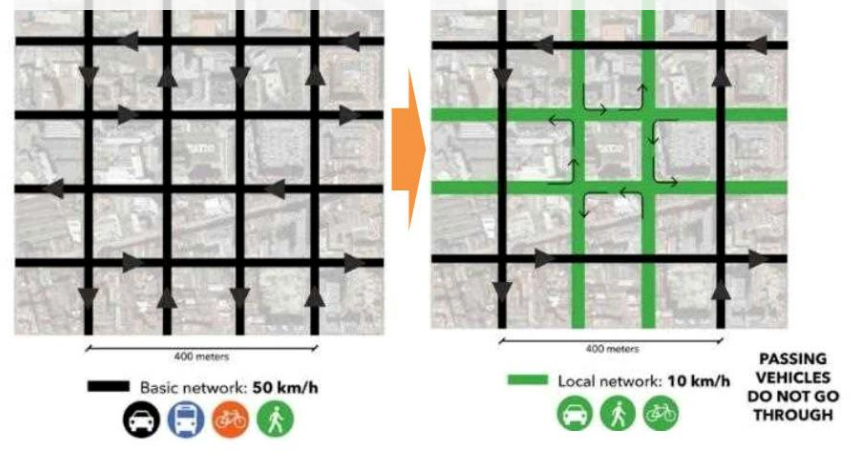
◆バルセロナ（緑化の推進）

緑の軸線の整備、環境対策にも寄与



◆バルセロナ（スーパーブロック）

9つの街区の内側（)は歩行者優先（自動車速度抑制）



出典：多様なニーズに応える道路ガイドライン（国交省）

4 検討の方向性

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（上位計画）

- 札幌市の最上位に位置付けられる総合計画としてビジョン編を2022年に、戦略編を2023年に策定
- 計画期間：2022年度～2031年度

目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと
新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

まちづくりの重要概念		
ユニバーサル(共生)	ウェルネス(健康)	スマート(快適・先端)
誰もが互いにその個性 や能力を認め合い、多 様性が強みとなる社会 の実現	誰もが生涯健康で、学 び、自分らしく活躍で きる社会の実現	誰もが先端技術などに より快適に暮らし、新 たな価値の創出に挑戦 できる社会の実現

ウェルネス（健康）

誰もが障害健康で、学び、自分らしく活躍できる社会を実現するに
当たっては、人生100年時代の到来を踏まえ、健康寿命の観点から、
居心地が良く歩きたくなる空間の形成が必要になる

(1)ウェルネスプロジェクトの三本柱

②ウォーカブルシティの推進 ～身体的な健康（ハード面）～

- 居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞留し
たくなる空間の形成に向けて、特性を生かした空間の整備
を進めます。
- 都心では、回遊性の向上に向けて官民連携による地下歩行
ネットワークの充実を図るとともに、道路などの公共的
空間の整備・活用を促進するほか、移動環境の充実に向けた
交通施策を推進します。

8 都市空間

基本目標19 世界を引き付ける魅力と活力あるれるまち

目指す姿

- ✓ 都心では、民間投資が活発化し、高次の都市機能の集積
が進む
- ✓ 快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実
により魅力的でうるおいのある歩きたくなる都心が形成
- ✓ データや先端技術の活用などにより、イノベーションが
創出され、新しい価値が生まれ続ける

基本目標20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限に活用するまち

目指す姿

- ✓ インフラや建築物は、必要な機能や人口動態なども踏
まえ、計画的な維持・保全・更新・再配置・複合化が
行われ、誰もが快適に利活用している
- ✓ 整備や運営・維持管理などに関する積極的な官民連携
により、多様で柔軟なサービスの提供が行われている
- ✓ 道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に活用され、
まちにゆとりやにぎわいがうまれている

【目指す姿】

快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実による

「魅力的でうるおいのある歩きたくなる都心」

※第2次まちづくり戦略ビジョンより

これまでの取組、国・他都市の動向、市民ニーズ等を踏まえ、
【更なる取組の推進に必要な検討の方向性】

本日の論点

札幌都心ならではの
「魅力的なストリートの形成」
(ハード)

※ストリート：街路のみならず沿道等も含む

都心のまちづくりを支える
「交通機能の維持・向上」
(ハード)

歩きたくなる・滞在したくなる環境を向上させる
「戦略的なマネジメント」
(ソフト)

「居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり」により
【期待される様々な効果】

賑わい・交流

美しい街並み

回遊性の向上

交通安全

交通機能向上

来街者・観光客数
滞在時間の増加

地価上昇

商業の売上増加

健康増進

環境負荷低減

項目	課題認識	検討の視点
札幌都心ならではの魅力的な「ストリートの形成」 (ハード)	● 格子状の街路網は街並みが単調になりがちであることから、ストリートの魅力や個性を高めていくことが重要	● 格子状の街路網における見通しの良さを生かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力付け（線と点のデザイン） ● 沿道の土地利用と一体となった街路空間の形成 ● 路線や区間によって変化のある空間の形成
	● 季節や天候、目的等によって選択性が高く、多様性に富み、安全・快適な移動経路が必要 ● 積雪寒冷地特有の地下での移動ニーズと地上部の賑わいの両立が重要	● 各エリアをつなぐ回遊、賑わい、交流の基軸となる象徴的なストリートの形成 ● 沿道の土地利用とも連動した地上・地下の重層的な歩行者ネットワークの形成 ● 積雪期の魅力と賑わいも考慮した札幌ならではのストリートの形成
都心のまちづくりを支える「交通機能の維持・向上」 (ハード)	● それぞれの交通機能（※）を確保しつつ、限られた道路空間等を全体として効果的、効率的に活用することが重要 ※交通機能：自転車、荷捌き、公共交通（バス、タクシー等）、一般交通、駐車施設等	● 各路線における交通機能と滞留機能のバランスや面的な機能分担 ● 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保 ● 都心を目的地としない通過交通の分散等
	● 北海道新幹線札幌延伸、新たなバスターミナルや都心アクセス道路の整備、新たな公共交通システムの導入などの将来の交通環境の変化を踏まえることが重要	● 新幹線駅からの回遊動線の充実 ● 都心部の道路交通全体の機能分担 ● 既存の公共交通との接続の円滑化

項目	課題認識	検討の視点
歩きたくなる環境を向上させる 「戦略的なマネジメント」 (ソフト)	● 公共的空間（※）の役割を幅広くとらえ、多様な活動や魅力的なコンテンツの創出により、賑わい・交流を促進することが重要 ※道路、公園、河川、公開空地等 ● 公共的空間において冬季の利用が落ち込む傾向があるが、雪という札幌の個性を生かすうえでも冬の利活用を促すことが重要	● エリアや建物等のコンセプトに合った多様な公共的空間の利活用の促進 ● 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築 ✓ 規制緩和やルールの特典化 ✓ プレイヤーの発掘・育成 ✓ 運営主体の資金確保 ✓ 市内外への積極的な情報発信 など ● 冬季の屋外空間や地上・地下の屋内空間の柔軟な利活用
	● 限られた道路空間においては、利用実態を踏まえた効果的、効率的な運用が重要	● 時間別のニーズに応じたタイムシェアなどの柔軟な空間利用を実現する仕組みの構築
	● 居心地が良く歩きたくなる都心まちづくりの推進による効果を関連分野にも波及させることが重要	● 健康（ウェルネス）、脱炭素（エネルギー）等の取組との連携